

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600535		
法人名	有限会社 ハーベストライフ		
事業所名	グループホーム みのり	ユニット名	杏
所在地	静岡県三島市南二日町650番地1		
自己評価作成日	平成24年10月29日	評価結果市町村受理日	平成25年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhvu_detail_2010_022_kani=true&JisvosvoCd=2270600535-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成24年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特段ひとつに力を入れているのではなく、一人一人の入居者様に対して、その方の、生活歴、好みなどの『その人らしさ』を尊重し、安全に、安心して暮らして頂けるよう、日々の生活を大切に考え支援させて頂いております。ご家族様との交流の機会も大切にし、ホームでの活動や支援の姿勢などを理解して頂けるように、日々活動しています。入居者様、ご家族様、支えて下さっている方々に対し、近く感じて頂ける存在になれるように、『日々の生活』を大切にしながら、自分達のケアを立ち止まり振り返りながら、みのりスタッフ一同チームとして、より質の高いケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム名「みのり」は、法人名ハーベスト(収穫)ライフから、利用者が「実りある最良の生活を収穫する」という願いを込めて、これを運営理念として定めている。また、ホームでの生活が心理的安定感と充実感を感じる「もうひとつの我が家」を目指し、法人代表・総括介護チーフ・職員が一丸となって努力している。ホームは2ユニットであるが、職員ははっきりしたユニット分けをせず、また利用者の担当も固定化していない。職員全員が利用者を自分の担当として捉え、かつ一人ひとりの個性と価値観を尊重しながら役割や出番が発揮できるようフォローしている。行政や近隣との関係も良好で、理念の下、益々地域での発展が期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『みのりある最良の生活を収穫する』『もうひとつの我が家』という理念の下、本当の家族に近づき、みのりでの生活が安心して気持ちの良いものになるような、支援を目指しています	社名のハーベスト(収穫)とみのり(実り)をかけた分かり易い理念を定め、利用者が安心して快適な生活ができる「もうひとつの我が家」を目指して、管理者・職員が一丸となって取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	恒例行事となった、納涼祭への近隣へのお招きに加え、隣組に加入し、地域行事への参加を通じ、地域の方との交流を図っています	隣組に加入し、地域の納涼祭や夏祭り等の行事に積極的に参加している。また、法人代表の人脈を生かした高校の和太鼓、地元子供会の「シャギリ」・餅つき・ソフトボール大会も行われ、地域交流が活発で、そろそろ組長の話もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の地域の方との交流の場において、法改正などの介護に対する疑問にお答えするようにしています。キャラバンメイトの活動も、行っています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、研修報告、取り組みの報告を行ったり、地域の方の介護に対する思いを伺い、サービスに生かせるようにしています	年間スケジュール化し、2ヶ月に1回着実に開催されている。新年会・忘年会等も行い、活発なフリートークの結果をホームの運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市町村職員の方に参加頂いたり、三島市グループホーム連絡会の場で、交流を図っています	日常の報(告)・連(絡)・相(談)は勿論の事、運営推進会議での相談、持ち回りで開催される三島市9カ所のグループホーム連絡会等で連絡・交流が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間での声掛けや連携で、常に利用者様の動きを見守り、施錠をしない、身体拘束をしない体制を作っています。また管理者から身体拘束についての正しい知識を得ています	〇宣言を行い、フィジカル(身体)・ワード(言葉遣い)・ドラッグ(薬物)ロックを管理者・職員全員で理解し、拘束の無い介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待防止委員会を設置し、事業所内で防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護等の制度を必要としている利用者様はいませんが、管理者は制度について知識を持っており、必要な時は活用できるようになっています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、法改定時には、ご家族様に内容を十分理解頂けるよう、文書を用いて、時間を十分とり、説明を行っています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員が市より訪問してくださり、利用者様一人ひとりに、不満や悩みを聞いてくださっています。ご家族様には、いつでも要望を伝えて下さるよう、声掛けしたり、ご意見箱を玄関ホールに設置しています	日常の訪問時や電話等の折に、利用者・家族の意向を伺っている。また、市の介護相談員の意向聴取も役立っており、ご意見箱の設置や請求書と一緒に送る一筆啓上でも率直な意向表示を促している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行っている職員会議や、毎日の申し送り、カンファレンス等で現場の職員の意見・提案を聞き、ケアの向上につながるよう、努めています	2つのユニットの介護差をなくすため、あえてユニットリーダーを置かない。1名を除き全員が正社員等の施策を講じ、職員会議・カンファレンス等で職員の意見・提案を尊重して汲み取り、ケアの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の関わりの中で、職員個々の勤務状況の把握に努め、必要に応じ職員面接等を行い、やりがいを持って働けるよう努めています。環境・条件整備にも、少しずつですが努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修には積極的に参加し、習得した知識は、施設にて実施しています。施設内では、日々のケアで、必要になる知識・技術を講習として全職員に伝えています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の見学研修などを積極的に実施し、同業者との交流や、ネットワーク作りに努めています。また自施設への見学も積極的に受け入れ、サービスの見直しや、質の向上に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接にて、自宅に出向き、ご本人とお話しさせて頂き、不安や要望を把握できるよう、努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接にて、細かい説明や相談にさせて頂き、ご家族様の不安、要望を把握できるよう、努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その段階で、最適なサービスを提供できるよう、お話しさせて頂き、状況により、他サービスの紹介など、その方に適したサービスを提供できるように努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	保有能力を最大限に活かし、出来る事はやって頂き、出来なくなってきたことをサポートしながら、役割や出番を大切に、共に家事等、手伝って頂きながら、本当の家族のように助け合う関係を目指しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠足等の行事には、ご家族様にも声を掛けさせて頂いたり、毎月請求書と共に、利用者様のご様子をお伝えする手紙を添え、ご家族様との繋がりを大切にしています		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活の継続をサポートする事を目標に、ご自宅や馴染みの場所で過ごして頂いたり、馴染みの方が、いつでも気軽にみのりに来て頂けるような、雰囲気作りに努めています	懐かしい人や場所・物の関係が途切れないよう、馴染みの人の来訪しやすい雰囲気作り、自宅や幼い頃の場所で過ごす時間、居室には昔から使っていた古い物の持ち込み等を促し、馴染みの関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格・生活リズム・相性などを考慮し席を決めたり、必要に応じ、職員が間に入り、利用者様同士が仲良く生活できるように努めています。可能な限り、みんなで支え合い過ごせるように配慮しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからの積極的なアプローチはしませんが、関わりや支援を必要とする利用者様には、フォローや相談の支援に努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人に一人づつ、担当職員をつけて、担当職員を中心に、ご家族様の意向、ご本人様の意向を汲み取れるように努めています。	利用者の思いや要望は共通の趣味や相性を考慮した担当職員を中心に良く把握され、実現を図っている。重度化した利用者に対しては常に想像力を働かせて体位や触られ方、声掛けが快いかを職員に指導し実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当職員を中心に、日々の会話・コミュニケーションの中から、馴染みの暮らし方を知ったり、ご家族様から、生活歴を伺ったり、前のサービス利用があれば、サマリー等で情報の把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーション、日々の関わりの中から様々な視点、考え方により、その方の現状の把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族からの意向の聞き取りと、担当職員を中心に、日々のケアからの気づきを、介護計画に反映させています	担当職員始め家族の言葉等関わりから得た気づきをポストイットに記入して利用者ごとに貼り集めて問題点を探っている。3ヶ月毎のモニタリングで現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果・気づき等を、個々のケース記録に記入し、変更・申し送り事項は、文書・口頭で職員間で共有し、介護計画や、日々のケアに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模の施設ならではの強みを最大限に活かし、型に囚われない、『利用者本位』のサービスの提供、柔軟な対応に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源においては、その把握に努め、その都度活用しながら、安全で、豊かな暮らしを実現出来るよう、努めています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状や、ご家族様、利用者様の希望を優先しながら、病院を選択し、受診・往診対応しています	殆どの利用者がかかりつけ医や専門医を受診しているが、落ち着いている場合には近所の内科に受診している。往診利用や通院支援で適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護職員が、週に一度健康チェックを行い、医療面での適切な対応が出来るようにし、支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、定期的に面会に行き、主治医や看護師に情報提供をお願いし、自施設の対応支援体制も相談しながら、早期退院に繋がるよう、努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについては、まず入居時に自施設の指針を説明させて頂いています。終末期には、往診や訪問看護を利用し、ご家族様とご本人様との相談を密にし、対応や方針について、変化に応じて話し合い、最良の対応が出来るように努めます	契約時に「看取りに関する指針」を説明し、本人・家族の意向を確認しながら、状態に沿ったマニュアルを作成し、職員が方針を共有し対応が統一できるよう図っている。家族のために簡易ベッドを用意して共に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、職員が適切に対応できるように備えています。チーフが、救命講習に参加したので、全職員対象に施設内研修を予定しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災に対する防災訓練を行っています。今年度は、地震・津波に対する訓練を実施したいです	年2回の防災訓練を実施している。地理的条件等を考慮して津波に対する訓練が予定されている。	あらゆる場合を想定し、有事の際に職員の体が自然に動くようになるまで繰り返し訓練されるよう望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄・着替え等の方法は、誇りやプライバシーを損ねないように配慮しています。普段の関わりも、人格を尊重した声掛けをしています	職員に認知症の正しい知識と理解を持って利用者と接し、自分と置き換えて、会話や支援が心地よい物であるか想像することを常に指導している。いつ伺っても利用者が穏やかである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団生活での生活、個々の生活を送る上で、可能な限り、利用者様の意向に沿い、自己決定して頂き生活できるよう、支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを考えながら、健康で穏やかに、安心して生活して頂けるよう、体操・レクリエーションも、毎日取り入れながら、余暇の時間は自由に過ごして頂けるよう、支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望により、訪問美容師の依頼や、お化粧品・毛染めの支援など、希望に沿ったおしゃれが出来るように支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューや、クリスマス・敬老会などの行事食を作り、季節感を感じて頂けるように、心がけています。準備や片づけは、利用者様と一緒にしています	利用者の健康と好みに合わせた和食中心の献立で、準備や片づけには職員と見まがうほどに手慣れた利用者が参加していた。週の半分は利用者が中心になっておやつ作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に食事量のチェックをし、状況によっては水分摂取量や食事内容を専用シートに記録しています。また嚥下状態に応じ、主治医・歯科医とも相談の上、食事形態を変えて対応しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後には、口腔ケアを行っています。特に臥床前は食べ物が口に残らないよう、念入りにケアしています。歯科医師の往診もっており、口腔内や義歯の不具合にも、迅速に対応するようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを把握し、出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援しています。排泄量チェックも行い、水分不足を早期発見出来るようにしています	排せつチェックや見守り、声掛けによりタイミングをとらえてトイレでの排せつを支援している。排せつ量チェックに加え、朝・昼のバイタルチェックも怠りなく丁寧な介護が垣間見える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な水分や野菜がきちんと摂れるように、支援しています。毎日体操を行い、体を動かす働きかけもしています。毎日排便確認をし、必要な場合は、内服薬の使用も検討します		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっていますが、希望があれば、いつでも入浴できるよう、配慮しています	ひとりの入浴に30分を用意して、会話を楽しみながらせかさずゆっくりとした入浴を支援しているため、利用者から「気持ち良いよ」の言葉も聞かれる。冷え性の方には安眠してもらえるよう足浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や、習慣に合わせ、必要に応じて静養して頂いています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から頂く『お薬の説明』にて、目的や効能、副作用を理解しています。誤薬しない服薬方法も実践しています。薬の変更・増減、体調の変化も確認・記録を行い、主治医とも生活状況など相談報告を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	配膳や食事の片づけ、洗濯たたみなど、個々の保有能力を活かして家事に参加頂いています。また曜日ごとに行われる『お楽しみ』の時間で、音楽・ゲーム・ボール遊び・習字などを行い、楽しんで頂けるようにしています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や散歩の要望があった時など、屋外に出かけています。また買い物や、コンサートに行くなどの、個別の希望にも可能な限り応じています	天気が良い日に希望者はホーム周辺を散歩し、花壇の花を眺めて楽しんでいる。近くのスーパーへの買い物や季節の遠足、町内の行事参加等利用者個々の要望に沿った外出支援がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に数回、利用者様の希望に応じて、買い物に出かけています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所から希望があれば自由に電話が使えるようになっており、ご家族様やご友人とお話をされています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除をまめに行い、清潔で安全な環境作りを心がけています。装飾品は、不快にならないよう、シンプルなものを中心に心がけています	居間等共用部分は過度な飾りつけを避け、利用者の作品やグリーンですっきりしている。廊下の全居室入り口には毛筆彫刻の表札が掲げられている。利用者を基準にした温度管理がされ浴室やトイレは臭いもなく清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は、気の合った方と会話が弾むように配慮しています。また窓辺にソファを置き、日光浴を楽しめるようにしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際、出来るだけご本人の使い慣れたものをご持参下さるように、お願いしています。住み慣れた空間で安心して生活して頂けるよう、支援しています	入居説明の際にあえて新しいものを購入しないで使い慣れた物の活用をお願いしているため、個性のある部屋作りがされている。日差しの調整や飾りつけ等利用者自身が思うままに手を入れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の目線やADLを考え、家具や手すり、間取りや様々な福祉用具を検討し、安全かつ、出来るだけ自立した生活が出来るよう、配慮しています		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600535		
法人名	有限会社 ハーベストライフ		
事業所名	グループホーム みのり	ユニット名	弐
所在地	静岡県三島市南二日町650-1		
自己評価作成日	平成24年10月29日	評価結果市町村受理日	平成25年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhuku_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2270600535-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成24年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特段ひとつに力を入れているのではなく、一人一人の入居者様に対して、その方の、生活歴、好みなどの『その人らしさ』を尊重し、安全に、安心して暮らして頂けるよう、日々の生活を大切に考え支援させて頂いております。ご家族様との交流の機会も大切に、ホームでの活動や支援の姿勢などを理解して頂けるように、日々活動しています。入居者様、ご家族様、支えて下さっている方々に対し、近くに感じて頂ける存在になれるように、『日々の生活』を大切にしながら、自分達のケアを立ち止まり振り返りながら、みのりスタッフ一同チームとして、より質の高いケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『みのりある最良の生活を収穫する』『もうひとつの我が家』という理念の下、本当の家族に近づき、みのりでの生活が安心して気持ちの良いものになるような、支援を目指しています	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	恒例行事となった、納涼祭への近隣へのお招きに加え、隣組に加入し、地域行事への参加を通じ、地域の方との交流を図っています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の地域の方との交流の場において、法改正などの介護に対する疑問にお答えするようにしています。キャラバンメイトの活動も、行っています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、研修報告、取り組みの報告を行ったり、地域の方の介護に対する思いを伺い、サービスに生かせるようにしています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村職員の方に参加頂いたり、三島市グループホーム連絡会の場で、交流を図っています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間での声掛けや連携で、常に利用者様の動きを見守り、施設をしない、身体拘束をしない体制を作っています。また管理者から身体拘束についての正しい知識を得ています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待防止委員会を設置し、事業所内で防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護等の制度を必要としている利用者様はいませんが、管理者は制度について知識を持っており、必要な時は活用できるようになっています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、法改定時には、ご家族様に内容を十分理解頂けるよう、文書を用いて、時間を十分とり、説明を行っています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員が市より訪問してくださり、利用者様一人ひとりに、不満や悩みを聞いてくださっています。ご家族様には、いつでも要望を伝えて下さるよう、声掛けしたり、ご意見を玄関ホールに設置しています		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行っている職員会議や、毎日の申し送り、カンファレンス等で現場の職員の意見・提案を聞き、ケアの向上につながるよう、努めています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の関わりの中で、職員個々の勤務状況の把握に努め、必要に応じ職員面接等を行い、やりがいを持って働けるよう努めています。環境・条件整備にも、少しずつですが努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修には積極的に参加し、習得した知識は、施設にて実施しています。施設内では、日々のケアで、必要になる知識・技術を講習として全職員に伝えています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の見学研修などを積極的に実施し、同業者との交流や、ネットワーク作りに努めています。また自施設への見学も積極的に受け入れ、サービスの見直しや、質の向上に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接にて、自宅に出向き、ご本人とお話しさせて頂き、不安や要望を把握できるよう、努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接にて、細かい説明や相談にさせて頂き、ご家族様の不安、要望を把握できるよう、努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その段階で、最適なサービスを提供できるよう、お話しさせて頂き、状況により、他サービスの紹介など、その方に適したサービスを提供できるように努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	保有能力を最大限に活かし、出来る事はやって頂き、出来なくなってきたことをサポートしながら、役割や出番を大切に、共に家事等、手伝って頂きながら、本当の家族のように助け合う関係を目指しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠足等の行事には、ご家族様にも声を掛けさせて頂いたり、毎月請求書と共に、利用者様のご様子をお伝えする手紙を添え、ご家族様との繋がりを大切にしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活の継続をサポートする事を目標に、ご自宅や馴染みの場所で過ごして頂いたり、馴染みの方が、いつでも気軽にみのりに来て頂けるような、雰囲気作りに努めています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格・生活リズム・相性などを考慮し席を決めたり、必要に応じ、職員が間に入り、利用者様同士が仲良く生活できるように努めています。可能な限り、みんなで支え合い過ごせるように配慮しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからの積極的なアプローチはしませんが、関わりや支援を必要とする利用者様には、フォローや相談の支援に努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人に一人ずつ、担当職員をつけて、担当職員を中心に、ご家族様の意向、ご本人様の意向を汲み取れるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当職員を中心に、日々の会話・コミュニケーションの中から、馴染みの暮らし方を知ったり、ご家族様から、生活歴を伺ったり、前のサービス利用があれば、サマリー等で情報の把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーション、日々の関わりの中から様々な視点、考え方により、その方の現状の把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族からの意向の聞き取りと、担当職員を中心に、日々のケアからの気づきを、介護計画に反映させています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果・気づき等を、個々のケース記録に記入し、変更・申し送り事項は、文書・口頭で職員間で共有し、介護計画や、日々のケアに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模の施設ならではの強みを最大限に活かし、型に囚われない、『利用者本位』のサービスの提供、柔軟な対応に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源においては、その把握に努め、その都度活用しながら、安全で、豊かな暮らしを実現出来るよう、努めています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状や、ご家族様、利用者様の希望を優先しながら、病院を選択し、受診・往診対応しています		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護職員が、週に一度健康チェックを行い、医療面での適切な対応が出来るようにし、支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、定期的に面会に行き、主治医や看護師に情報提供をお願いし、自施設の対応支援体制も相談しながら、早期退院に繋がるよう、努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについては、まず入居時に自施設の指針を説明させて頂いています。終末期には、往診や訪問看護を利用し、ご家族様とご本人様との相談を密にし、対応や方針について、変化に応じて話し合い、最良の対応が出来るように努めます		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、職員が適切に対応できるように備えています。チーフが、救命講習に参加したので、全職員対象に施設内研修を予定しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災に対する防災訓練を行っています。今年度は、地震・津波に対する訓練を実施したいです		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄・着替え等の方法は、誇りやプライバシーを損ねないように配慮しています。普段の関わりも、人格を尊重した声掛けをしています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団生活での生活、個々の生活を送る上で、可能な限り、利用者様の意向に沿い、自己決定して頂き生活できるよう、支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを考えながら、健康で穏やかに、安心して生活して頂けるよう、体操・レクリエーションも、毎日取り入れながら、余暇の時間は自由に過ごして頂けるよう、支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望により、訪問美容師の依頼や、お化粧品・毛染めの支援など、希望に沿ったおしゃれが出来るように支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューや、クリスマス・敬老会などの行事食を作り、季節感を感じて頂けるように、心がけています。準備や片づけは、利用者様と一緒にしています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に食事量のチェックをし、状況によっては水分摂取量や食事内容を専用シートに記録しています。また嚥下状態に応じ、主治医・歯科医とも相談の上、食事形態を変えて対応しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後には、口腔ケアを行っています。特に臥床前は食べ物が口に残らないよう、念入りにケアしています。歯科医師の往診もっており、口腔内や義歯の不具合にも、迅速に対応するようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを把握し、出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援しています。排泄量チェックも行い、水分不足を早期発見出来るようにしています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な水分や野菜がきちんと摂れるように、支援しています。毎日体操を行い、体を動かす働きかけもしています。毎日排便確認をし、必要な場合は、内服薬の使用も検討します		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっていますが、希望があれば、いつでも入浴できるよう、配慮しています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や、習慣に合わせ、必要に応じて静養して頂いています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から頂く『お薬の説明』にて、目的や効能、副作用を理解しています。誤薬しない服薬方法も実践しています。薬の変更・増減、体調の変化も確認・記録を行い、主治医とも生活状況など相談報告を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	配膳や食事の片づけ、洗濯たたみなど、個々の保有能力を活かして家事に参加頂いています。また曜日ごとに行われる『お楽しみ』の時間で、音楽・ゲーム・ボール遊び・習字などを行い、楽しんで頂けるようにしています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や散歩の要望があった時など、屋外に出かけています。また買い物や、コンサートに行くなどの、個別の希望にも可能な限り応じています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に数回、利用者様の希望に応じて、買い物に出かけています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所から希望があれば自由に電話が使えるようになっており、ご家族様やご友人とお話をされています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除をまめに行い、清潔で安全な環境作りを心がけています。装飾品は、不快にならないよう、シンプルなものを中心に心がけています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は、気の合った方と会話が弾むように配慮しています。また窓辺にソファを置き、日光浴を楽しめるようにしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際、出来るだけご本人の使い慣れたものをご持参下さるよう、お願いしています。住み慣れた空間で安心して生活して頂けるよう、支援しています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の目線やADLを考え、家具や手すり、間取りや様々な福祉用具を検討し、安全かつ、出来るだけ自立した生活が出来るよう、配慮しています		